

公益社団法人日本リハビリテーション医学会 平成 26 年度 第 8 回理事会議事録

日 時：平成 27 年 3 月 14 日(土) 12 時～17 時

場 所：八重洲会議室 2 階 2 A 会議室

構成員：理事 20 名，監事 3 名

出席者

理事長／水間正澄

副理事長／才藤栄一・出江紳一・安保雅博

理 事／浅見豊子・石川 誠・久保俊一・上月正博

近藤和泉・佐浦隆一・志波直人・白倉賢二

菅本一臣・千田益生・帖佐悦男・道免和久

芳賀信彦・正門由久

監 事／朝貝芳美・木村彰男・田島文博

欠席者：理事／島田洋一・椿原彰夫

議 題

I. 報 告

1) 業務執行理事会報告

水間理事長から平成 26 年度第 8 回業務執行理事会（Skype 会議）の報告があった。

2) 会員現況報告

水間理事長から会員現況の報告に併せ、医師以外
の入会の促進について協力依頼があった。

3) 寄附金の受け入れ状況について

水間理事長から寄附金の受け入れ状況の報告があり、目標額を達成するために引き続き関係方面への協力依頼があった。

4) ISPRM 招致準備について

才藤副理事長から ISPRM の Bid 資料提出状況、6 月 19 日のベルリンでのプレゼンに関する要請、ISPRM 個人会員加入の要請、留学生受入れ状況調査への協力依頼があった。

5) ICF シンポジウムについて

出江副理事長から 3 月 8 日に ICF Core Sets 日本語翻訳出版記念として開催された ICF シンポジウムについて、参加者は 166 名で盛会裏に終了した旨報告があった。また水間理事長から、ICF シンポジウム開催経費は、医歯薬出版からの寄附金や、藤田保健衛生大学及び昭和大学からの援助もあり、予定した予算の半額、約 400 千円の支出にとどまった旨補足があった。

6) 専門医会及び専門医会学術集会について

水間理事長から、2017 年度から機構専門医がスタートし、制度上専門医は機構認定専門医となることから、専門医会学術集会の在り方が変わってくる。このため専門医会及び学術集会の在り方について次回理事会までに見直しの方向性を示して討議していきたい旨説明があった。

7) その他

①リハビリテーション医療関連団体協議会

水間理事長から、リハ医療関連団体協議会は今年度が一応の区切りとなることから、会長会を組織して今後の在り方を検討していくとの報告があった。また、グランドデザイン部会ではグランドデザイン作成のまとめがほぼ固まり、近々公表する予定であること、地域包括ケア部会は国の動向を見ながら活動を継続、そして、人材育成部会はセラピストの育成を柱に検討しキャリアアップ指標を近々公表する旨の報告があった。石川理事から報酬部会について、介護報酬に関してリハ科医の関与が薄いとの指摘があり、改訂に向けた新たな活動が始まっているとの報告があった。

②大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会

水間理事長から JRAT の活動のために国の国土強靱化計画の担当を決めて推進していくことなどの報告があった。

③日本医学会評議員会及び日本医学会連合臨時総会

水間理事長から、日本医学会評議員会及び日本医学会連合臨時総会が開催された旨報告があった。

II. 重要審議事項

1) 平成 27 年度事業計画案について

才藤副理事長から前回理事会以降に各委員会等の意見を踏まえて財務委員会、業務執行理事会で見直しをした平成 27 年度事業計画最終案について説明があり、審議の結果、最終案のとおり承認した。

2) 平成 27 年度収支予算案について

安保副理事長から前回理事会以降に各委員会等の意見を踏まえて財務委員会、業務執行理事会で見直しをした平成 27 年度収支予算最終案について次の

とおり説明があった。平成 27 年度は会費を 3,000 円値上げするが、平成 26 年度当初予算と比して 12,000 千円程度の収入増にしかない。これは、学術集会や専門医更新料、研修会事業費が前年度に比べ減となるためであり、会費値上げをしなければ収入が大きく減少することになるものであり、引き続き財政状況は厳しい状態である。経常費用ではいくつかの科目で見直しを行っており、その結果経常収支増減は約 10,000 千円の黒字を予定した。

これに対し、木村監事から中長期的な財政見込みについて問われ、安保副理事長から毎年 10,000 千円程度の経常収支の黒字を確保していくことを目標としている旨説明があり、承認された。

審議の結果、平成 27 年度収支予算案は、最終予算案のとおり承認された。なお、実習研修会事業予算をゼロとしたことに伴い、今後の実習研修会の在り方を教育委員会で検討することとした。

続いて平成 26 年度収支決算見込みについて次のとおり説明があった。平成 26 年度は収支差額が約 40,000 千円弱の黒字となる見込みであるが公益目的事業会計で約 10,000 千円弱の黒字となる予想である。この黒字は、平成 27 年度の公益目的事業予算の赤字見込みに充当する。また、資金ベースでも黒字となるため、平成 25 年度に取り崩しを行った特定資産に積戻しをしたい。

審議の結果、平成 26 年度の公益目的事業会計の黒字を平成 27 年度公益目的事業会計の赤字補てんとすること及び特定資産への積戻しが承認された。

3) 新専門医制度について

芳賀理事から新専門医制度に向けた対応等について次のとおり説明があった。

日本専門医機構基本領域委員会である専門医委員会、研修委員会の業務が明確になりつつあるため、今後の業務内容を勘案しこれらの委員会委員を交代し、更に本医学会専門医制度委員会に、資格認定委員会、施設認定委員会、教育委員会、試験委員会の各委員長（施設認定は副委員長）を加える旨の提案があり、審議の結果、原案のとおり承認された。なお、資料が分かりにくいので、整理して役員に送付することとした。

民間企業が毎年開催しているレジナビフェアに、新専門医制度が始まることから今年度初めて学会コーナーを設ける旨の紹介があり、本医学会としても参加していきたい。5 月の大阪、6 月の東京開催に、理事 2 名ずつ派遣したい旨説明があり、審議の

結果、原案のとおり承認された。

日本専門医機構から、基本領域学会と機構との連携の在り方に関する WG を設置したいとの依頼があり、芳賀理事と事務局から岡本事務局員を派遣したい旨説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

医療倫理・医療安全・感染対策講習会について広告するとともに、秋の専門医会学術集会から学術集会の中で企画してもらうことを確認した。

専門研修プログラム整備基準は、日本専門医機構からの意見に基づき修正を加え機構に再提出したい旨説明があり、審議の結果、承認された。また、専門研修プログラム整備基準に基づき提出する専門研修プログラム申請書は、基幹研修施設及びすべての連携施設が同様の申請書を作成する必要がある。現在そのモデルプログラム（4 本）を作成中である。このモデルプログラムが機構で認定されれば、4～5 月にはモデルプログラムを学会内に公表する予定である。研修プログラムは一昨年 122 本出されているが、現在の基準に合わせると 90 前後にまとまる予想である。これに対して、内科、外科、整形外科等他科のプログラム数をつかんでおく必要があるとの意見が出され、審議の結果、原案のとおり承認された。

専門医更新基準は、理事会前日に機構から修正意見が届いたので、専門医制度委員会で調整して再提出したい。その中で、連続して 4 回以上の資格更新を行った専門医については、当該領域で相応の経験を有する専門医の知識・経験を後進への指導に生かす目的で、学会専門医を含めて連続して 4 回更新している場合は 5 回目の更新の際に臨床実績証明を免除するなどの措置を取りたい旨の説明があり、審議の結果、更新基準の再提出及び更新の特例について、原案のとおり承認された。

4) 選挙制度について

芳賀理事からこれまでの選挙制度検討委員会での審議の到達状況について次のとおり説明があった。

代議員選挙は原則書面投票とするが、代議員候補者が定数を超えない地区では、信任投票を行う規則に改正する。また、医師以外の正会員が代議員となりにくい状況から、代議員総会に医師以外の正会員のオブザーバー参加を認めるかどうかについては、引き続き検討を継続する。

役員選挙については、当面、現行通りの選挙を行うこととし、役員が選出されなかった地区について

は、理事会に当該地方会からオブザーバーを出してもらい、また、代議員総会における役員の選任方法について改正を行う。

これらの検討を踏まえて、次の改正案について説明があった。

①選挙活動に関するガイドライン案について

会員の氏名公表という文言を削除する旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

②代議員選挙に関する規則改正案について

主な改正点について、代議員定数の算定方式をウェブスター方式とすること、代議員選挙及び役員選挙共通の候補者数が定数を超えない地区については信任投票とし、異議がなければ信任投票を行ったものとみなす規定に改正すること、選挙管理委員会を、代議員選挙、役員選挙共通の委員会として別建てすること、代議員選挙に関する内規に規定する内容を本規則に盛り込んだことから、同内規を廃止するなどの説明があり、審議の結果、第20条第2項第2号の「倫理委員会の議を経て」を「倫理委員会に諮問し」と修正し、あとは原案のとおり承認された。

③役員候補者の選出並びに役員の選任に関する内規改正案について

主な改正点について、選挙管理委員会を、代議員選挙、役員選挙共通の委員会として別建てすること、これまで推薦を主体に作られていた規則を、立候補主体に変更すること、代議員総会での役員信任投票の方法を、書面、挙手その他の方法で行えるよう規定することなどの説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

④理事会の人事に関する内規改正案について

副理事長の選出方法について、白票の取扱い、最下位同点者の取り扱いを規定した旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

これらの改正規則案は、会則検討委員会に附議し、次回理事会で決定することとした。

Ⅲ. 審議事項

1) 平成27年度前期各種委員会委員の委嘱・退任について

水間理事長から平成27年度前期各種委員会委員の委嘱・候補者について説明があり、審議の結果、障害保健福祉委員に推薦された田中宏太佳先生は他の委員会を二つ持っているため交代していただいた方がよいとの発言があり、委員会を指定しないで推

薦されたりリストから、荻野美佐先生を充てることとした。また、倫理委員会、研究倫理審査会、利益相反委員会については、先ごろ全国医学部長病院長会議が発表したガイドラインでは委員構成に女性や弁護士を含めることとなっているので対応すべきではないかとの意見が出され、次回理事会までに調査することとした。

その他は一部氏名の誤植を修正し、原案のとおり承認された。

委員の委嘱退任については、それぞれ担当理事から連絡を入れて承諾をもらうこととした。

また水間理事長から、ISPRM 招致について国際委員会と ISPRM 招致委員会が連携して活動するため、国際委員会担当理事に道免理事を加える旨説明があり、審議の結果、承認された。

2) 平成27年度名誉会員及び功労会員の推薦について

水間理事長から平成27年度名誉会員候補として赤居正美先生を、功労会員候補として蟹江良一先生、鷹野昭士先生、腰野富久先生、富雅男先生、大田仁史先生、穂山富太郎先生の6名を推薦したい旨説明があり、審議の結果、これらの先生の他、名誉会員に伊藤利之先生を加えることとし、承認された。

3) Corresponding Member の推薦について

佐浦理事から Gerold Stucki 先生、Walter R. Frontera Roura 先生の2名を推薦したい旨説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。また、才藤副理事長から、ボルトガルリハ学会会長のジョージ・レイズ先生を推薦したい旨提案があり、国際委員会で追加審査を行い次回理事会に諮ることとした。なお、海外名誉会員という表記は会則にないために、日本語表記を止めることとした。

4) 平成26年度専門医・認定臨床医認定試験について

芳賀理事から平成26年度専門医・認定臨床医試験結果について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。なお、専門医試験において採点除外問題が2題発生したことから、今後の対策について試験委員会で検討することとした。

5) 学会誌リニューアルの進捗状況について

道免理事から和文学会誌リニューアル及び英文ジャーナル刊行準備状況について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

6) 厚労省後援研修運営委員の推薦について

水間理事長から、ライフプランニングセンターからの依頼による①がんのリハビリテーション研修運営委員の推薦については、近藤国嗣先生、辻哲也先

生、小山照幸先生の継続、②リンパ浮腫研修運営委員の推薦については、辻哲也先生、近藤国嗣先生の継続をそれぞれお願いしたい旨説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

7) PTOTST 養成施設等教員講習会事業運営委員の推薦について

水間理事長から、医療研修推進財団からの依頼による同講習会運営委員の推薦については、現在の椿原彰夫委員長、東京地区の太田喜久夫先生、川手信行先生、大阪地区の大澤傑先生、村尾浩先生に継続をお願いしたい旨説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

8) 日本小児神経学会理事候補の推薦について

水間理事長から、昨年日本小児神経学会の外部理事として推薦した朝貝芳美先生が今年同学会理事の定年となることから後任の推薦を求められていることについて、近藤和泉理事に依頼したい旨説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

9) 論文賞の選考と表彰に関する内規改正案について

道免理事から、平成 26 年 3 月理事会で改正した論文賞の選考と表彰に関する内規について、編集委員会では論文賞を会員以外でもその対象としたいと考えて昨年 1 月の理事会に改正案を提案したが、その後の 3 月理事会では会則検討委員会の会員に限定すべきとの意見を受けて修正された。今回論文賞の選考に当たり、会員以外の論文が授賞対象となったため、会則を改正したいとの説明があった。これに対し、会員を対象とすべきとの意見や、会員以外の優秀論文には別の賞を用意したらどうかといった意見も出されたため、①会員以外でも可とする本改正案、②会員に限定すべきとする案、③会員以外には特別賞を授与するという案の 3 原案について採決を行った。その結果、① 6 人、② 10 人、③ 2 人となり、改正案は否決された。

このため、次回理事会に会員を対象とした審査結果を提案することとした。

10) 会誌投稿並びに執筆規定に関する申し合わせ改正案について

道免理事から会誌投稿並びに執筆規定に関する申し合わせ改正案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認され、会則検討委員会に附議することとした。

11) 平成 27 年度海外研修助成対象者について

佐浦理事から平成 27 年度海外研修助成候補者について説明があり、審議の結果、原案のとおり松瀬

博夫先生、蜂須賀明子先生、石原健先生、千田譲先生の 4 名に授与することとした。

12) 平成 27 年度外国人短期交流医対象者について

佐浦理事から、平成 27 年度外国人短期交流医対象者については応募がなく該当者なしとした旨説明があり、了承された。なお、国際委員会において募集方法について検討をしてもらうこととした。

13) 各種規則改正案について

上月理事から、① Honorary Member (外国人) に関する内規改正案、② Corresponding Member に関する内規改正案、③ RJN 内規改正案についての会則検討委員会の検討結果について説明があり、RJN 内規改正案は原案に戻すことを補足し、審議の結果、原案のとおり承認された。

14) 医師以外の正会員の入会について

上月理事から会則検討委員会からの医師以外の正会員の推薦について説明があり、審議の結果、室伏祐介先生、金子文成先生、芥川智彰先生、石黒幸治先生、伊藤慎英先生、井上順一朗先生の 6 名の入会を承認した。

15) 会員の入退会について

才藤副理事長から入退会者の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

16) 社会保険等委員会関係

石川理事から内保連、外保連、「ADL 維持向上加算」Web アンケートの実施、診療報酬改定 Web アンケート結果について報告があり、承認された。

17) ケアマネアンケートについて

菅本理事から他職種との連携強化に向けた調査アンケートの実施について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

18) 専門医会関係

大串専門医会幹事長から第 9 回専門医会学術集会収支決算報告案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。続いて痙縮 SIG コアメンバーの再任等について説明があったが、本件は報告事項として説明を受けておくこととした。また、専門医会プロジェクトグループに関する申し合わせ改正案について説明があったが、SIG はプロジェクトではないこと、プロジェクトは期間を限定して実施するものであることから、WG の中にプロジェクトと SIG を位置づけるよう修正すべきとの意見が出され、改めて修正案を次回理事会に提案することとした。

19) RJN 世話人の委嘱について

浅見理事から RJN 世話人の再任案について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

20) 資格認定委員会関係

①指導医の新規認定について

浅見理事から指導医の新規認定について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

21) 施設認定委員会関係

①研修施設の新規認定について

浅見理事から研修施設の新規認定について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。なお、昭和大学江東豊洲病院については、ST 常勤者がゼロとなっていることから、ST を埋めるよう伝えることとした。

②研修施設の資格保留について

浅見理事から研修施設の資格保留について説明があり、審議の結果、原案の通り承認された。

22) 実習研修会について

正門理事から平成 27 年度開催依頼および平成 26 年度開催の脊損・尿路管理研修会での赤字補てんについて説明があり、実習研修会の在り方については予算審議の際の議論を踏まえて教育委員会で検討することとし、脊損・尿路管理研修会での赤字 13,600 円は補填を承認した。

23) その他

①後援・協賛について

才藤副理事長から後援・協賛について説明があった。5 件の後援依頼のうち支援機器利用拡大シンポジウム（国立障害者リハビリテーションセンター主催）については、開催時期の関係から業務執行理事会で承認をし今理事会で事後承認を得ることを含め、5 件の依頼について後援を承認することとし、審議の結果、原案の通り承認された。

②大学リハビリテーション部門責任者調査について

水間理事長から前回理事会で承認されたりハビリテーション部門調査内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

③パラリンピックに向けての活動について

田島監事から和歌山県立医科大学において文部科学省マルチサポート事業（パラリンピック競技）への申請を行うにあたり、リハ医学会との関連を申請書に付記することの了承と、マルチサポート事業が認められた際には、リハ医学会内部にパラリンピック支援の委員会を設置し、活動を行うよう要請があり、審議の結果、障害保健福祉

委員会でサポートを行い、サポートのための特別委員会を設置する方針が決定された。関連して、千田広報担当理事から、パラリンピックへの選手派遣が費用面で困難な状況にあるために支援をしたいとの発言があり、学会として費用サポートはできないので、ドネーションなどを考えるよう意見が出された。

④会計顧問の交替について

水間理事長から、現在の会計顧問を交代したい旨説明があり、木村監事から費用面や交代理由など慎重に進めてほしい旨意見が出された。本件については改めて次回理事会で説明することとした。

IV. 報告事項

1) 各種委員会報告

平成 27 年 2 月 6 日から 3 月 6 日に開催された各種委員会について、次の通り各担当理事から報告があった。

① 編集委員会	道免理事
② 評価・用語委員会	志波理事
③ 教育委員会	正門理事
④ 資格認定委員会	浅見理事
⑤ 試験委員会	芳賀理事、白倉理事
⑥ 障害保健福祉委員会	久保理事、菅本理事
⑦ 関連機器委員会	菅本理事
⑧ 広報委員会	千田理事
⑨ 国際委員会	佐浦理事

2) 専門医会報告

大串専門医会幹事長から、第 52 回学術集会において専門医会企画として 2 つの企画を出している旨報告があった。

3) RJN 報告

浅見理事から RJN 世話人会の報告があった。

4) JARD 報告について

近藤理事から JARD の活動について報告があった。これに対して、データベースを作ることの意義から再検討すべきとの意見が出された。

5) 2-g, 2-f (2 回目以降) 項目による生涯教育研修単位の申請について

正門理事から生涯教育研修単位の申請について報告があった。

6) 病態別実践リハ医学研修会について

正門理事から平成 27 年度病態別実践リハ医学研修会神経系障害の開催計画及び平成 26 年度病態別実践リハ医学研修の収支について報告があった。

7) 臨床研修医等医師向けリハ研修会について

正門理事から平成 27 年度臨床研修医等医師向けリハ研修会開催概要について報告があった。

8) その他

①第 55 回学術集会会長の推薦について

水間理事長から、第 55 回学術集会会長について 3 月 31 日までに事務局長宛推薦を行うよう依頼があった。

②平成 26 年度各種委員会報告書の提出について

水間理事長から、平成 26 年度各種委員会報告書を 4 月 10 日厳守で事務局長に提出するよう依頼があった。

③運動器の 10 年・日本協会会員連絡会について

水間理事長から、運動器の 10 年・日本協会会員連絡会について、理事長代理として千田理事に出席いただきたい旨依頼があり、了承された。

④平成 27 年度日本義肢装具学会飯田賞候補者推薦依頼について

浅見理事から依頼があった。

⑤平成 27 年度障害者福祉サービス等報酬改定について

朝貝監事から説明があった。

⑥産科医療保障制度について

朝貝監事から説明があった。

⑦次長の雇用について

水間理事長から、採用を保留していた次長について面接を行い、吉田茂之さんを 5 月 1 日付で採用することとした旨報告があった。

⑧日本医学会総会 2015 について

佐浦理事から総会の参加要請があった。

以 上